

ショートコメント vol.257 (2022年9月26日)

テーマ：電子部品の輸出急減は先行きへのシグナルか
 ～台湾、中国での生産状況に連動した動き～

●関西の輸出動向

関西の輸出に異変がみられる。

図表1をみる限り、全体としては前年を上回る動きが続いており、特に異変はみられない。関西の主力である電機関連の伸びが鈍化している程度である。

ただ、電機関連を品目別にみると、大きな変化が確認できる。半導体等電子部品（以下、電子部品）が前月までの好調から、大幅な減少に転じている（図表2）。

一見、突発的な減少であるが、8月の世界情勢をみると、ちょうど台湾で輸出が大幅に鈍化したタイミングと重なる。

台湾といえばスマートフォンやPC、テレビといった家電製品の世界的産地であり、その生産量の変化は各国の動きを左右する。台湾の8月の輸出鈍化は、情報通信技術（ICT）・オーディオ製品や光学器材の減少によるものであり、それに連動して関西からの部品輸出が減少した可能性が高い。

●電子部品の輸出減

実際に、関西からの電子部品の輸出先をみると、8月はアジアNIEsと中国向けが大きく減少している（図表3）。アジアNIEsの大半は台湾が担っており、上記の動きと符合する。

一方、関西からの輸出は、アジアNIEsだけでなく中国向けも減少しているが、中国の需要減少こそ、8月の台湾の輸出鈍化の要因でもある。

中国は8月も主要都市のロックダウンが続く中、電力不足による工場の稼働停止も重なり、生産の停滞につながった。結果として、関西からの電子部品の輸出も大きく減少する形となっている。

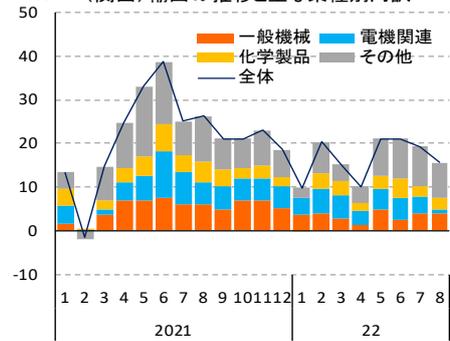
注目されるのは、8月の動きが継続的なものか否かであろう。

中国でのロックダウンや電力不足は、時間とともに解消が見込まれるものの、輸出を取り巻く環境自体は決して楽観できない。世界的なインフレに伴う各国での利上げにより、最終製品の需要が減少し、メーカーの在庫も増えているのが現状である。

こういった状況を勘案すると、ひとまず減少の動きは解消に向かうとしても、どの程度回復するかは判断を許さない。場合によっては輸出全体の鈍化につながる可能性もあろう。

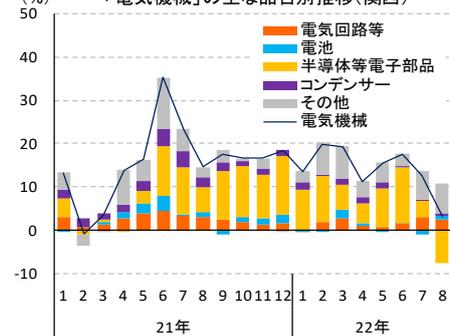
消費の本格回復が遅れる中、これまで景気を支えてきたのは輸出の好調であるだけに、今後の推移が注目される。

【図表1】 (関西) 輸出の推移と主な業種別内訳 (%)

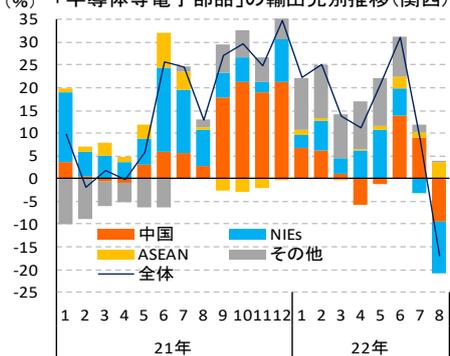


(出所) 財務省「貿易統計」、以下同じ

【図表2】 「電気機械」の主な品目別推移(関西) (%)



【図表3】 「半導体等電子部品」の輸出先別推移(関西) (%)



本件照会先：大阪本社 荒木秀之
 TEL：06-6258-8805 mail：hd-araki@rri.co.jp

※本稿は情報提供が目的であり、商品取引を勧誘するものではありません。また、本稿は当社が信頼できると判断した各種データに基づき作成しておりますが、その正確性、完全性を保証するものではありません。なお、本稿に記載された内容は執筆時点でのものであり、今後予告なしに変更されることがあります。